
聖地巡礼

長谷川 遼

みなさん、こんにちは。知的財産法の講義や演習を担当している長谷川です。

今回『法学周辺』のエッセイを担当するに際して何を書くか悩んだのですが、「改めて」になる方も多いと思うものの、自己紹介も兼ねて、知的財産法の分野の研究を志したきっかけと、趣味のお話をしようと思います。ちなみに、そもそも知的財産法とはどんな分野なのかご関心のある方は、先日『法学教室』2025年8月号(539号)に「知的財産法の輪郭」というタイトルの大学生向けの文章を掲載していただいたので、ぜひそちらをお読みください。

さて、「法学の研究者」と聞くと、「大学入学時から法学が大好きで研究者を目指していたのかな？」などと思われるかもしれませんが、もちろんそういう方もいらっしゃると思うのですが、私の場合は、勉強は好きでしたが、そこまで高い意識は持っていませんでした。ではどんな進路を思い描いていたのかというと、漠然としたものでしたが、元々好きだったアニメーションの業界に進むことを、少しだけ考えていた時期がありました。

私が小中学生の時代は、学校から家に帰ると夕方に教育テレビやテレ

び東京で、夜の夕食時には日本テレビ・フジテレビ・テレビ朝日で、大量のアニメが放送されていました。要は子供を熱心なアニメファンに育てる環境が整っていたのです。私自身は小学生だったのでよく内容を理解できず、ちゃんと観ていたわけではないのですが、今でも人気のある『新世紀エヴァンゲリオン』はこの時期の夕方に放送されていました。そうしてアニメを浴び続けた私は、気づいた時には立派なアニメファンになっていたのです。高校・大学と進学していく頃には、深夜アニメやライトノベルのブーム（例えば『涼宮ハルヒの憂鬱』等）もあり、なかなか卒業させてもらえません（「アニメや漫画はある程度の年齢に達したら卒業するもの」という考えは、もしかすると今の若い方にはピンと来ないかもしれませんが、当時は割とそういう風潮だったのです）。振り返ってみると、私の青春時代は二次元系の文化の一つのピークと重なっていたのかもしれませんが。高校から大学にかけては特に新海誠監督の作品に魅了されて、いつか新海監督のような素晴らしいクリエイターをサポートする仕事ができたらなあ、などと考えるようになっていました。

ちなみに、新海監督は『君の名は。』、『天気の子』、『すずめの戸締り』といった近年の大ヒット作品で（アニメファンではない方でも知っているというレベルで）著名な方ですが、実は『君の名は。』以降とそれより前の作品では少し作風が異なっています。かつての作風のタイトルとしては『秒速5センチメートル』が有名ですが、同作を含め、（初期の）『彼女と彼女の猫』や（『君の名は。』のひとつ前の作品の）『言の葉の庭』といった詩的な作品も素晴らしいので、機会があればぜひご覧になってください（もちろん最近の作品も大好きです）。私の高校・大学時代は、インディーズ系のアニメ作家が登場してきた時代で、新海監督はその先駆けといわれています。同じタイプのクリエイターとして

は、吉浦康裕監督も好きです。直近の『アイの歌声を聴かせて』でご存じの方もいるかと思いますが、それ以前にも『ペイル・コクーン』や『イヴの時間』といった素敵な作品を手掛けられていますので、こちらもぜひご覧になってください！

大学生活中盤以降に弁護士を目指すようになってからも、アニメーション制作等のクリエイティブな業界と関わる仕事をしたいという気持ちは残っていました。法科大学院（ロースクール）で勉強する中で法学の研究者の道を考えるようになった際にも、その思いが一つの後押しとなって知的財産法の研究を志したような気がします。もちろん今のところアニメーション業界と直接関わるような活動はしていませんが、研究・教育を通して業界に少しでも寄与したいという密かな願いは持ち続けています。

さて、ここからは完全に趣味の話です。ここまでお話してきた通り、私はやや濃いめなアニメファンだったのですが、そこから派生していわゆる「聖地巡礼」を趣味にしていました。もちろん、これは本来の意味における聖地巡礼ではなく、アニメ等の作品の舞台とされた、特にロケハンが行われて作品の背景に実際に描かれているような場所を、そのファンが訪れることを指します。最近では、各所で聖地巡礼を用いた町おこしが行われており、海外からの訪問客もいます。作品の舞台を訪れる行為自体はアニメ以外の作品では昔からあったことでしょうし、アニメ作品でもかなり前からあったようです。ただ、私が若い頃はアニメ作品の聖地巡礼は趣味としてはかなりニッチなもので、よもやここまで一般化するとは思っていませんでした。一つにはアニメ自体の人气が大きくなったこと、もう一つには、作品を観て訪れたいくなるほどに舞台が美しく詳細に描写されることが増えたことが、理由としてあるようです。実

際、新海監督や京都アニメーションの作品は背景美術や撮影技法に特徴の一つがあり、観ていると現地を訪れてその作品の世界に没入してみたい、という気持ちに駆られます。また、最初から舞台となる地域とのタイアップを意識した作品も増えています。

学生の頃は友人と一緒にいろんな作品の舞台を訪れましたし、今でもたまにはありますが出かけています。聖地巡礼の魅力は、何といてもその作品の雰囲気を感じられることです。主人公たちがその辺を歩いていそうな気配を感じたり、あのキャラはここでこんなことをして育ったのかな、などと想像したり……。その意味では、聖地巡礼の楽しみには、二次創作に近いものも含まれているのかもしれませんが、ちなみに、おすすめの没入方法は、事前にその作品の劇伴等を聴き込んで現地で脳内再生できるようにしておくことです。その場で実際に曲をイヤホンで聴くのもよいのですが、できれば現地の環境音もしっかりと聞きつつ作品の世界に浸りたいところです。また、入念なロケハンを経て作られた作品では、制作陣がその地を舞台に選んだことに何らかの意味があるわけで、現地に行ってその空気を吸い、その土地のものを食べ、生活や文化に触れ、人々と交流することで、作品の理解が深まる気もしています。もちろん、作品外在的な情報を文脈としてどこまで読み込むかは、観る人の自由なのですが、舞台を訪れてかえって描写の矛盾に気づくこともあります……。そこはうまい具合に「二次元のフィクション作品なのだから」と目を瞑りましょう（笑）。あとは、そもそもモデルとなった場所を見つけ出す喜びもあるかと思います。もっとも、最近はGoogle Mapsのストリートビューで発見するのが容易になっていたり、作品にロケ地の協力企業等がクレジットされていたりするので、昔ほどこの点には重きが置かれなくなっているかもしれません。

以下では実際に聖地巡礼をして思い出に残っている場所を3つだけご紹介します。

● 『Just Because!』 —— 神奈川県鎌倉市・藤沢市

高校生の青春・恋愛という定番のテーマを扱ったアニメですが、静謐で繊細な描き方が心に残る、とても素敵な作品です（特に小宮恵那役のLynnさんの演技は必聴です）。そして、舞台となった冬の鎌倉・藤沢での高校生のこぢんまりしたスケール感の生活が、見事に作品に落とし込まれていることも特筆すべき点でしょう。冬に湘南深沢駅周辺を訪れるだけで作品の雰囲気をしっかりと感じ取れます。ただ、とりわけ住宅街については訪れる際に地域の方々の迷惑にならないよう、十分に気を付けてください（これは聖地巡礼全般にいえることです）。やなぎなぎさんが手がけられた劇伴等がこれまた素晴らしいので、脳内再生の準備を済ませておきましょう。

● 『ラブライブ！サンシャイン!!』 —— 静岡県沼津市（内浦周辺）

『ラブライブ!』シリーズは説明の必要がないほど有名かもしれませんが、私自身はリアルなアイドルにほとんど興味がなかったもので、アイドルを扱うアニメ作品もあまり観てきませんでした。ただ、たまたま深夜に再放送をしていた『ラブライブ！サンシャイン!!』を観る機会があり、その熱いストーリーにいつの間にかハマってしまいました（笑）。沼津の郊外にある高校のスクールアイドル（説明略）の奮闘を描いた同作ですが、この地域ならではの描写に溢れていて、現地を散策するだけで作品の空気に浸れます。風光明媚な土地ということもあり、印象的なシーンで登場する内浦の海岸に初めて辿り着いた時は、とても感動しました。地域とのタイアップも強力で、おそらくこの種の取り組みが最も成功した事例なのではないかと思えます。

● 『CLANNAD ～ AFTER STORY ～』 —— 青森県横浜町（陸奥横浜

駅周辺)

この作品は説明が非常に難しいので内容には触れませんが、泣かせにくる系の最たるもので、紹介する場所もかなり涙腺に来るシーンで描かれています。陸奥横浜駅で下車して5 kmほど歩くと現れる一面の菜の花畑は、周囲の景色と相まって息を呑むほどの美しさでした。これも作中で描かれるシーンがあるのですが、帰りに大湊線の車窓から眺めた陸奥湾に浮かぶ夕日も印象的でした。作品が少し古いこともあり訪問からもだいぶ経ちますが（当時は東北新幹線が八戸までしか開通していませんでした!）、思い出深い場所です。

他にも紹介したい場所はたくさんありますがこの辺で。ほぼ趣味の話になってしまいましたね。とはいえ、最近の作品にはあまり目を通しておらず、もはやアニメファンを名乗っていいのか怪しいので、皆さんのおすすめの作品があればぜひ教えてください！